



石神井中だより

練馬区立石神井中学校

校長 山田 美鈴

令和7年6月5日

第3号

「晴好雨奇」～ゴールのその先～

校長 山田 美鈴

<本校美術部制作>



今年度体育祭のスローガンは「晴好雨奇」。晴れの日美しい眺めを見ることができ、たとえ雨の日であっても奇観を見ることができるという意味から、どんな状況でも好転させていくことで、ゴールのその先には大きな価値が生まれるという気概を皆で自覚していこうと、体育祭実行委員会が全校生徒に呼びかけ、本番まで取り組んでくれました。

体育祭予行練習時、私からは「カッコいい姿」を見せてほしいと全校生徒に伝えました。カッコつけるのではなく「カッコいい姿」とはどのような姿のことなのか？それぞれ考えて取り組んでほ

しいと思い、具体的なことは示さず、あえて課題を提示しました。

人としてカッコいい姿というのは、泥臭く辛抱強く誰が見ていなくても頑張る姿や勝敗が明らかになった後でも最後まで全力を尽くす姿のことであって、決して外見（見た目）の良さではありません。そういう生徒の姿を見逃すことなく、目を皿のようにして見届けようと、私なりに目標を掲げ体育祭に臨みました。

開会式での代表生徒宣誓。3人のまなざしは私の目に痛いほど突き刺さりました。何としても体育祭を成功させてみせるという決意漲る姿は、カッコいい背中を全校生徒に焼き付けてくれたことでしょう。

準備運動は実行委員を中心として交流練習を重ね、気持ちを一つにしてみごとにそろった集団演技となりました。気迫のこもった集散の掛け声がより一層皆の心を動かしてくれました。

今年度初めて取り入れた「部活対抗リレー」。交流レースと決勝レースの2種類に分け、各部活動がインパクトのあるレースを繰り広げてくれました。

1年学年種目「台風の日」。審判係の先輩たちが反則にならないようにブザーでやり直しさせるだけでなく、いつしか横につきっきりで声援を送っている様子は何とも微笑ましい光景でした。

2年学年種目「大縄跳び」。続けば続くほど辛く苦しいのが回し手となる2名の生徒です。掛け声を出すことで、跳び手全員が跳びやすいように全身の力を振り絞って回す姿は、まさにかっこいい雄姿そのものでした。

本校の伝統種目である3年学年種目「むかで競走」。体育祭のメインです。開始前に3年生全員が、クラスを越えて互いに全力で頑張ろうと誓い合う掛け声は会場中が盛り上がる瞬間でした。本番はなかなか練習通りにはいきません。勝ったクラス、負けたクラス……。力を尽くしてきたからこそその尊い涙がありました。

そして閉会式での実行委員長の涙は誰もが心打たれました。苦しさを乗り越えてやり切ったからこそ賞賛の拍手が響き渡りました。彼のかっこいい背中に私は涙しました。

たった一日の出来事のようにあっても、生徒一人一人にとって一生の思い出となったことを確信しています。まだまだ伸びしろ十分の石神井中生。これからも応援し続けていきます。